



はじめに

はじめに

皆さんはパワースポットというものをご存知でしょうか？

読んで字のごとく……と簡単に説明したかったのですが、和訳すると「力点」。これでは物理の授業になってしまいます。

パワースポットとは、最近注目されている「その場所に行くと力や運が手に入る特別な場所」のことです。

歴史のある神社や仏閣、山や公園、いわれのある岩石などを最近ではパワースポットと呼ぶ傾向にあります。

私も昔からパワースポットには興味津々でした。

そんな中で降って湧いた同人誌のページ不足。これを補うにはパワースポットの調査しかない！と一人で勝手に意気込み、特急電車で飛び乗ったのでした。

以下は2009年11月15日に、都内にある3つのパワースポットと呼ばれる場所を巡ったレポートです。

入り口から本殿まで

入り口から本殿まで

山奥の実家から山を下り、駅から駅へ電車を乗り次ぎ山手線までやってきた。

いつも利用する新宿と渋谷に挟まれた原宿駅に着く。この駅で降りるのは初めてだ。

休日の午前8時にもかかわらず、駅のホームから改札まで混んでいた。リスナーさんと原宿駅で待ち合わせてパワースポットオフをやろうかとも考えたが、どうやら一人で来て正解だった。改札を過ぎてざっと見まわしたが、原宿駅には待ち合わせに使えるような場所がなかった。改めてハチ公の偉大を感じていると、明治神宮に到着した。近い。近いのは知っていたが、駅から歩いて200歩程度の距離だろう。

案内板に目を通し、さっそく本殿の方向を確認してそちらに顔を向けると、大きな鳥居が立っていた。



普段目にするような朱塗りの鳥居ではなく、大きな木を使ったその姿は圧倒的な存在感を放っていた。

軽い深呼吸をして鳥居をくぐる。参道の幅はとても広く、本殿までの道のりは長かった。ここが初詣客300万人を受け入れることができる理由を知ることができた。元旦は幅20m程もある参道が人で溢れ返るという。

本殿前のこれまた大きい鳥居を抜けると、本殿に到着した。この頃には入口付近で聞こえていた原宿駅のアナウンスも届かず、砂利を踏みしめる音と参拝客が交わす話し声しか聞こえなくなっていた。



(菊の季節なので、皇室の家紋にちなんでの菊花展が開かれていた。全国の菊農家や農学校から立派な菊がところ狭しと展示されていた。)

本殿から清正井まで

本殿から清正井まで



(本殿・御主殿への門)

手を清め、本殿に入る。とても広く、巫女さんや神社の職員が何人か働いているのが見えた。皆一様にいい歩き方をしている。そういうところも指導されるのだろうか。彼らとは対照的な猫背の私も無理矢理背筋を伸ばし、賽銭箱の前に立って参拝した。明治神宮の賽銭箱は、箱というよりも長い長いテーブルのようだった。大勢の参拝客を受け入れる神社ならではの造りであろう。

本殿を出た私は、ようやく今日の第一目的地である加藤清正の井戸へと向かった。

加藤清正の井戸、社内案内では清正井と呼ばれるこの場所は、虎退治で有名な戦国時代の猛将、加藤清正が掘り起こした井戸とされ、都会のど真ん中からこんこんとわきだすその井戸は日本屈指のパワースポットとして知られるようになった。最近では女性芸能人のブログにも取り上げられるなど、清正井を訪れて体やアクセサリーにその水をつけてパワーを得る人が増えているという。都市伝説講座でも何度か取り上げたことがあるので、すでに知っている人も多いだろう。

清正井があるのは明治神宮内の御苑と呼ばれる場所で、ここに入るには500円が必要になる。さっそく入口まで来

たが閉まっている。開園は9時らしく、20分ほど明治神宮内を散策して時間をつぶした。

折も良くこの日は七五三だったので、いたるところで着飾った子どもを連れた家族が目についた。

神宮内は人が多く、特に外国の観光客が多かった。奉納された絵馬も、日本語と外国語が半々で、ほとんどが英・韓・中国語でアラビア語やロシア語も目立った。

ゆっくり歩いて神宮内を半周して戻ると、すでに御苑は開いていた。

500円を受付小屋のおじさんに渡して、菱形の入場券と簡単な御苑の地図をもらう。清正井は御苑の最も奥まったところにあるようだ。



清正井から帰路へ

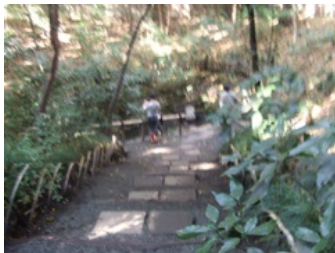
正井から帰路へ



(御苑内はかなり広いので、迷いやすい。)

元々地図を読むが苦手なので、迷いながらも目的の清正井に到着することができた。

御苑が開いて20分ほどしかたっていないにも関わらず、清正井には4人も並んでいた。どうやらこの場所が目当てで御苑にやってきた人ばかりのようだ。



(並んでいたのは4人ほど。今なら考えられないほど空いている。)

2人の女性と1組のカップル、やはりこういった場所は女性に人気らしい。

列に並び、清正井を見る。池の水面に少しだけ突き出した井戸らしき囲いがあり、その中から水が湧き出しているのが分かる。形としては井戸というよりも湧き出している泉のようだ。

自分の番が回ってくるまでしばらく待つ。これが長かった。どこから来ているのかは分からないが、休日の朝一番に500円払ってやってきたのだから、じっくり井戸を楽しみたいのもわかる。だが、いくらなんでも10分以上も井戸の前から動かねえとはどういう量見だい？前のバカップルさんよお！？

こちとら遠く離れた山の中から出てきたんだぜ？てめえらの恥垢まみれの手で触れたら清正さまの井戸が穢れちまうんだよおおおおお！

……とは露程も思わず、コンクリートジャングルから隔絶された明治神宮の、色づき始めた木々を楽しんでいると、自分の番になった。



石段を下りて池の上にある飛び石に乗って清正井の前に立つ。

ここが都内、いや日本屈指のパワースポットなのか・・・たしかに雰囲気としては最高だ。バカッブルさえいなければ。

身をかがめ（前述のように、井戸の形でなく泉に近いので届まなくてはいけない。）、井戸の水に触れる。冷たい。さっそく清正井の水を、体の中で一番悪い部分の頭に付けた。ひやりとした感覚が悪い頭を良くしてくれるだろうか。

。次はイケメンになれますようにとの願いを込めて顔を洗った。お金にも縁があるようにと財布にも水を少しだけ付ける。

最後に突き出た腹に塗りたくりたかったのだが、前のバカッブルがまだ井戸の近くでイチャイチャとイチャリングをかましているの、このままでは脂肪にまみれた腹を見られてしまう。私は手に水を付け、深呼吸するふりをしてバカッブルの視線がこちらに向いていないことを確認すると、急いで服をめくり、むき出しになった腹にピチャピチャと井戸の水を塗った。

『グッバイ、メタボリック。グッバイ、バカッブル。』やりたいことを全て成し遂げた私は、心の中でそう叫び、清正井を後にした。

井戸の近くには「井戸の水を飲むことはできません」と立て札がしてあったが、そこから50cmほどのところにコップが置かれていた。

おそらく最近までは飲めたらしいのだが、いろんな意味でまずいので、飲用を禁止したのだろう。

目的を果たした私は御苑を軽く回って、次へ向かうことにした。

来た道に戻るにつれて、発車ベルとアナウンス、都会の喧騒がだんだんと大きくなっていく。

私は騒がしい日常に戻っていくのを実感しながら、駅の改札を通り抜けた。

清正井

東京都渋谷区代々木神園町1-1

03-3379-5511

明治神宮内御苑 御苑の入場料500円。午前9時開園。

（明治神宮自体は朝からやっています。）

アクセス JR原宿駅より徒歩1分

※明治神宮の大鳥居に関して

明治神宮に初めて訪れる人を圧倒させる大鳥居。この鳥居に使われている木材は、台湾の標高3000メートルの山中にあった樹齢1500年の見事な檜を使用しています。（日本にはすでにこれほどの檜はありませんでした。）

あまりにも人里離れた場所にあるこの檜を運ぶために専用の道路が作られ、日本へと運ばれ作られたものです。この日行ったパワースポットに劣らぬ、素晴らしい力を秘めている鳥居だと思います。

おまけ



(清正井に関する立て札。)



(明治神宮といえば、奉納されている無数の酒樽。まさに圧巻。)



(2010年1月ごろの写真。テレビで紹介され、人気絶頂の頃。ネットの知人が撮影。)

次回は目黒の新しいパワースポットでお会いしましょう。